

南丹市、南丹市議会、南丹市教育委員会が主催となり、昨年度に続き2回目の「市長と語ろう、わたしたちのまちづくり」を8月23日(金)南丹市議会議場で開催しました。
「環境問題」と「エネルギー問題」を発表テーマにアイデアを考え、各学校の代表児童・生徒が意見発表を行いました。

「市長と語ろう私たちのまちづくり」を開催しました！



市長・市議会議員参加のもと、児童・生徒たちがイラスト等を使い議場にて意見発表を行いました

主な提言内容

- ・子どもたちがデザインしたエコバッグの推奨によるレジ袋の減量
 - ・ゴミ拾い活動の推進
 - ・水環境の保全・節水の取り組み
- 市長から「レジ袋減量化については今日から取り組んでいきたい」との講評がありました。

◆各幼稚園・小中学校における本年度の特色ある取り組み◆

園部 幼稚園



「好き」を広げる体験として、茶道に取り組む園児たち

祖父母ボランティアや地域の専門家などの保育参加を計画し、体験を通して人と触れ合う喜びを感じたり、興味の幅を広げ、好きなことを極める面白さを感じたりする機会にしています。
今年度5歳児は、野菜の苗を植える時に、祖父母に招待状を送り、来園を呼びかけ植え方を教わりました。茶道では、凛とした雰囲気の中で所作や抹茶の味を知り、「またやりたい」と意欲を見せています。このことは異年齢児にも刺激を与えていくことでしょう。

八木中央幼稚園



保護者が作った竹馬に挑戦し、楽しく活動しています。友達と一緒に楽しみ、刺激を受け合い高まっています

保護者に制作していただいた竹馬に挑戦しています。しかし、簡単には乗れない竹馬。コツコツ取り組む子、できひん！と始めから諦める子、遠巻きに友達の様子をじっと見ている子等様々な様子が見られました。9月になり「竹馬に乗れるようになりたい！」「乗れるようになったところをおうちの人に見てほしい」という思いが学年全体に芽生え始めました。最近では、一歩二歩と踏み出せた子、友達が乗っている姿に刺激を受けやってみようとしてチャレンジする子、乗れるようになり自信をもって取り組んでいる子等の姿が変わってきています。一人一人、意欲の高まりは違いますが、子どもの姿に応じた言葉かけをし、目的をもって遊びが楽しめるように環境を整え保育を進めています。

園部 小学校



子どもたちの成長を地域と家庭と学校で支える取り組みです

コミュニティ・スクールの取り組みの一つとして、「子どもの安全を守る」というテーマでワークショップを行いました。
今回は、日頃から児童の安全を見守っていただいている登下校ボランティア、南丹市交通指導員、こども110番のいえの方々に参加していただきました。年齢、性別、職種を問わず、みんなで議論することで様々な意見が出されました。地域と家庭と学校が手を取り合い、児童の安全を見守っていくという気持ちが一層高まりました。

園部 第二小学校



学年を越えて児童たちをつなぐ伝統的な和太鼓演奏

毎年開催する「ひろがれ青空 音楽会」での6年生の和太鼓は圧巻です。
暑さが増す体育館で、心身ともに厳しい練習を互いに励まし合って乗り越え、つながりを深めていく中で、6年生は最上級生としての自信と誇りを高めています。
本番での1つになった重厚な和太鼓の響きは、聴くものの心を打ちます。下級生は、その姿、演奏から6年生への憧れをもちます。こうして6年生の和太鼓は園部第二小学校の伝統的な取り組みとなっています。

八木西小学校



自分自身と仲間を大切に、思いやりの心を育む取り組みを展開

八木西小学校では、人権教育を基盤に全ての教育活動を行っています。自分自身と仲間を心から大切にしている児童を育てると共に、笑顔と歌声があふれる学校をめざしています。
6月には人権旬間を設定し、「ふやそう！ぼかぼかことば」をスローガンとし、人権の木いっばいにぼかぼかことばの花を咲かせました。そして、テーマ曲「すてきな友達」を歌詞の意味を考えながら心を込めて歌い、学校中に笑顔が広がりました。

八木東小学校



異なる学年の児童が遊びを通してつながりを深めています

八木東小学校では、全校児童が10の異年齢班に分かれて行う「ニコニコ班」活動を積極的に展開しています。
年間を通して「ニコニコの日」を設定し、少し長い昼休みに異年齢班遊びをしています。1年生から6年生が、それぞれに遊びの提案や運営を行います。子どもたちは責任をもって役割を果たし、他学年と笑顔いっばいで遊びを楽しむ時間となっています。人権教育を基盤としながら、自己有用感を育み、仲間の輪を広げ、全校のつながりを深める大切な取り組みです。

殿田小学校



児童の豊かな育ちに向けて地域一体となって取り組んでいます

殿田小学校学校運営協議会では、児童が地域のよさに目を向け、地域に一層愛着を感じることができるよう、国の重要無形民俗文化財「田原の御田」を学校で上演することを企画し、6月に上演しました。
上演にあたり保存会の方々など多くの地域の方々を中心となって、伝統文化を児童に披露していただきました。
本校では、他にも学校運営協議会が主体となって、地域総がかりで、児童の豊かな育ちにつながる取り組みを進めているところです。

胡麻郷小学校



交流体験を通して豊かなコミュニケーション能力を育んでいます

胡麻郷小学校は、京都府教育委員会「学びの深化プロジェクト研究校」として人権教育を基盤にした英語教育を進めています。「生き生き、にこにこ(Let's be energetic and cheerful!）」を合い言葉に、児童は学習した英語を活用して様々な国の人と交流し、多様性を認め合いながら、積極的につながろうとする態度や資質を高めています。
また、このことは自国の文化や地域のよさを再発見する学習にもなっています。

美山小学校



地域資源を生かして子どもたちの学びを深めています
4年生が体験しました

これまでの熟議の中で、毎回のように話題になったのは、美山が誇る大自然、芦生の森での体験についてです。京都大学と芦生もりびと協会、学校、地域コーディネーターによる話し合いで、学校の教育課程の中でどのような学びにつなげていけるのか、協議しました。実際に体験すると、当たり前のように自然のようでありながら、新しい発見の連続でした。由良川の源流を見ると、自然の力に驚きを感じました。杉尾峠からは、広い海を眺めることができました。これまでの取り組みとの違いは、学校と地域とが一緒になって計画し、取り組んだことです。さらに充実した内容にするため、学校と地域と一緒に振り返り、よりよい姿を目指し、さらに充実した取り組みにしていきます。

園部中学校



生徒たちの更なる飛躍に向けて、プロフェッショナルから生きた経験を学びます

園部中学校では、京都府オリンピック・パラリンピック推進校の指定を受け、来る11月29日(金)に、アテネ・北京五輪の女子バレーボール日本代表として活躍した大村加奈子氏(現：京都府立北嵯峨高等学校教諭)の講演会と実技講習会を開催します。また、12月12日(木)には数多くの事業を立ち上げ、成功を収められたカトープレシヤグループ代表取締役兼CEO加藤友康氏が来校され、働く意義についての講演会を行います。お二方は、その道の「プロフェッショナル」であり、活躍されるまでには数多くの苦労があったことだと思います。自らの意志で進路を切りひらく中学生にとって「プロ」から直接学ぶことは心を揺さぶられる体験となるでしょう。

八木中学校



ともに考え、学び、一人一人がお互いを大切に思いあう取り組みです

心のバリアフリー事業の取り組みとして、本校3年生と丹波支援学校中学部の生徒の交流学習を進めています。丹波支援学校の先生による事前授業を受け、7月4日に、丹波支援学校で第1回目の交流を行いました。グループに分かれて、中学部の生徒とのダンスや様々なゲームを通しての交流は、笑顔のあふれる楽しいものとなりました。第2回目の交流(10月31日)に向けて、3年生で活動内容を考えています。再会がとて楽しみます。

殿田中学校



応援演技を通して互いの絆を深めあう生徒たち

殿田中学校は、全校生徒90名が学年をこえて3ブロックに分かれ、球技大会・体育祭・文化祭・進路学習等に取り組んでいます。後輩は先輩から多くのことを学び、先輩は後輩を導くことで、より質の高い学校生活を目指します。学校祭(体育祭・文化祭)のスローガンは「In One Heart」。3ブロックは、単なる競争ではなく、お互いを高め合い、励まし合い、支え合って、努力しています。全校合同の応援演技は、見事な出来栄でした。

美山中学校



ことばの深さを学び、小論文作りに取り組む生徒たち

本校では、総合的な学習の時間の取り組みとして、全校生徒が小論文作りに取り組む「輝きの時間」を設定しています。テーマは、一人一人が日常生活や社会事象などから興味関心にに応じて設定します。例えば、「女性の社会進出」～女性の仕事は家事だけではない～、「人工知能が人間の生活に及ぼす影響」、「日本語の意味と深さ」など、その分野も多岐にわたります。教員の専門性から編成したグループ(ゼミ)ごとに、アドバイスを受けながら骨子づくりや論文作りを進めていきます。多種多様な小論文ができあがっていきます。

桜が丘中学校



切磋琢磨し、協力して目標達成する生徒たち

桜が丘中学校は、児童自立支援施設に併設された南丹市の5番目の中学校で開校して5年が経ちました。施設と学校、両方の取り組みを進める中で、本校では今年度より生徒会を立ち上げ、生徒が主体的に活動できる場を少しずつ広げています。生徒会では学習会の運営や、寮での自主学習を増やすキャンペーン活動等を行っています。また体育祭も今年度から生徒の意見を取り入れた企画・運営となるよう、今年度から生徒会を中心に会議を重ね、取り組みを進めています。生徒はお互いの良さを認め合い、ともに各行事を創りあげていく達成感により自信をつけ、普段の学校生活も充実させています。

◆南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◆

地域学校協働活動推進員の配置について

地域総がかりで子どもを育てる取り組みの一つとして、地域と学校を繋ぐ役割を担う「地域学校協働活動推進員」として美山小学校に古北真里さんが配置され、木村義二教育長から委嘱状が交付されました。

古北さんは南丹市で初めて配置された推進員であると同時に、京都府内においても第1号となる推進員です。南丹市では今後他の小中学校にも推進員を配置し、南丹市全域で地域と学校との協働した取り組みを進めていきます。



南丹市教職員夏季研修大会の開催について

南丹市教育委員会では、市の教職員の実践的指導力等の向上を図ることを趣旨として、毎年8月に南丹市教職員夏季研修大会を開催しています。今年度は、8月23日(金)に日吉町生涯学習センターを会場に開催し、当日は200名を超える教職員が参加しました。

研修会では、京都少年院鑑別所医務課長 定本ゆきこ氏、河内長野市美加の台中学校区地域コーディネーター 大谷裕美子氏をお招きし、定本氏からは「幼児・児童生徒の正しい理解と適切な支援について」、大谷氏からは「次代を担う子ども達を育てるために」というテーマでそれぞれ講演をいただきました。また、講演の合間には、南丹市教育委員会社会教育課から「園部藩立藩400年について」説明しました。



講演後、参加した教職員は、「講演を聴いて二学期を目前に背中を押してもらったような気がした。」「地域・保護者・学校が協働して地域の子どものため具体的な取り組み内容についてよく分かった。」「地域の歴史等についての理解が深まった。」等の感想を口々に述べていました。

園部藩立藩400年事業の取り組みについて

令和元年(2019年)は園部藩が誕生して400年目となる節目の年です。社会教育課では、市内の道の駅を巡回するパネル展示や、なんたんテレビ特集コーナーにて藩の歴史や文化財を紹介しています。

いよいよ10月19日からは、市内外に点在する藩関連の美術工芸品や古文書を一堂に会した特別展を南丹市立文化博物館にて開催します。今秋に新たに市の指定文化財となり10年ぶりに一般公開される歴代藩主の肖像画も展示予定です。ぜひご来館ください。

